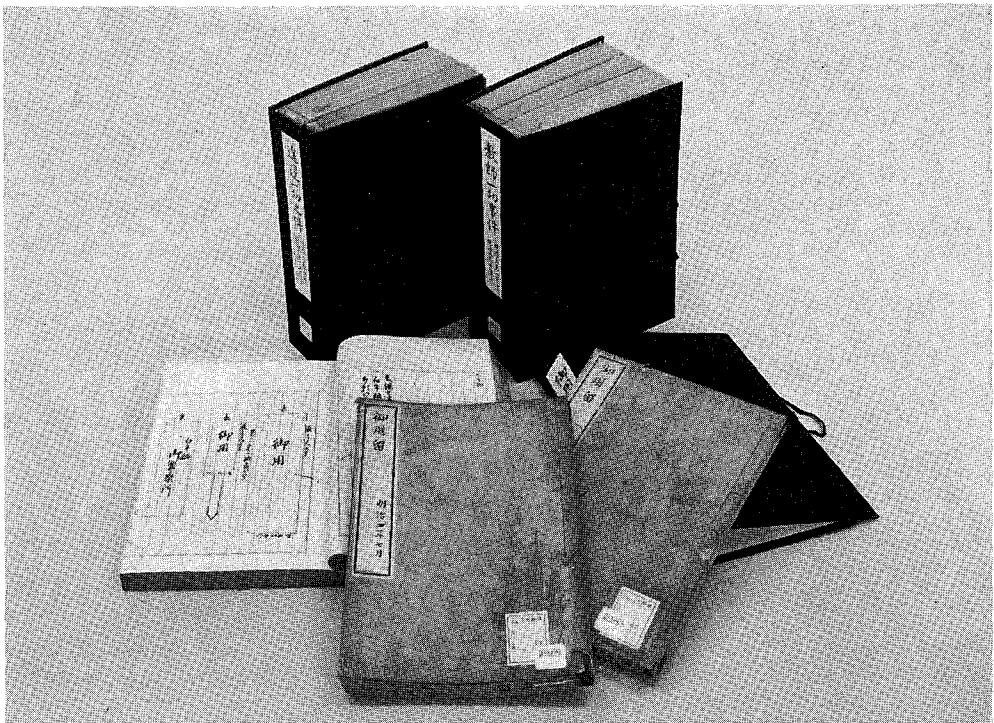




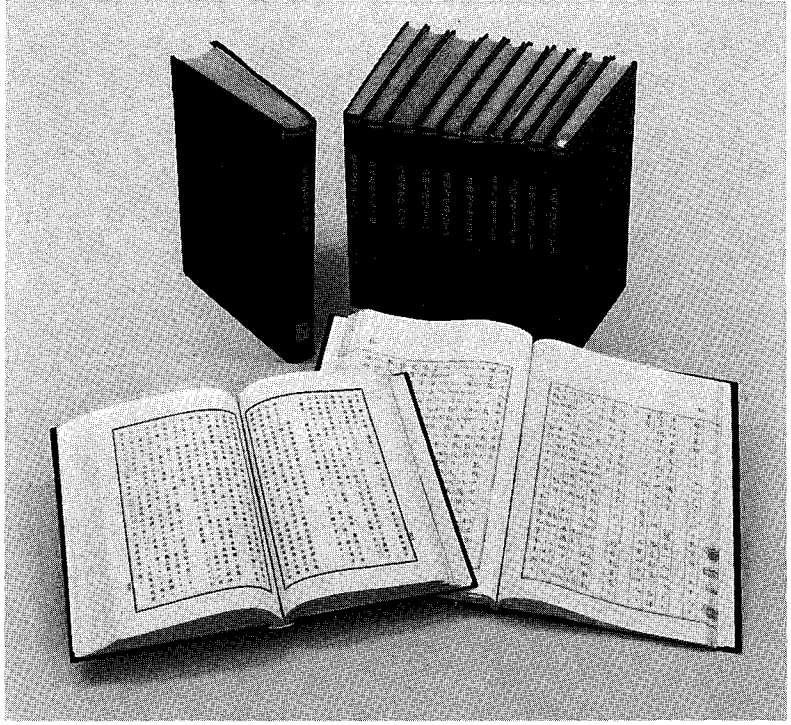
五十年史料



五十年史料

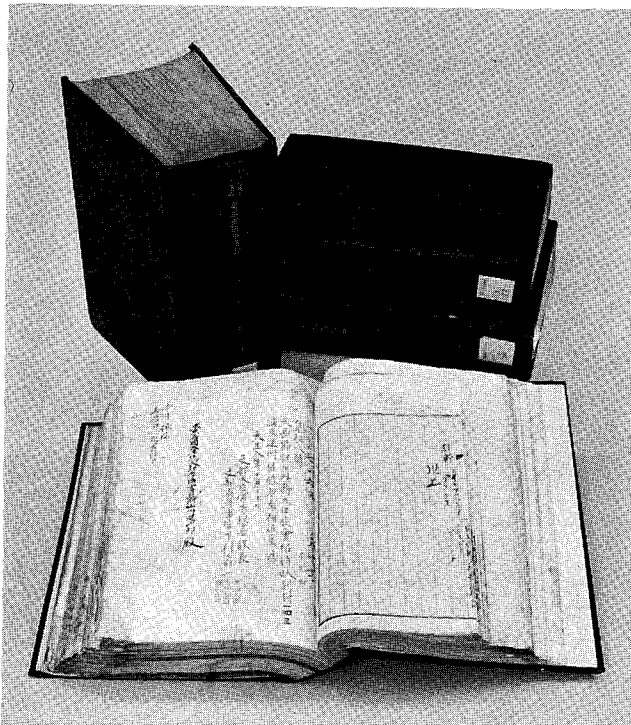
総合図書館所蔵『五十年史料』は、昭和三（一九二八）年から同七年にかけて行われた『東京帝国大学五十年史』編纂に際して収集された、学内保存文書を中心としたコレクションである。本学の草創期の実態を知ることができる唯一の資料であるばかりか、近代日本の教育史、学術史、政治史の基本的かつ重要な側面を明らかにする第一級の史料群として、その価値は極めて高い。しかしながら現存する『五十年史料』は編纂当時に収集された全部ではなく、前身校を含む医学部系統の関係文書が相当に欠けていることが惜しまれる。

この史料群は、『東京帝国大学五十年史』編纂終了後も、五十年史編纂室にあてられていた総合図書館の一室にそのまま放置されていたらしい。昭和三十年代後半になって図書館職員の手により現在の形に整理・目録化された。文書の本来の保管者である「庶務課」のラベルの上に貼付された「五十年史料」のラベルは、長すぎた放置期間が史料の所有権を図書館へ移したことを物語っている（写真下）。なお、この『五十年史料』は図書館において「貴重書」扱いで学内外の研究者の利用に供され、現在は百年史編集執筆のために活用されている。（本文「SAAと大学アーカイヴズについて」参照）



東京大学年報・帝国大学年報

文部省往復



東京大学年報・帝国大学年報

前頁に掲げた『五十年史料』の中には、稿本『東京大学年報』『帝国大学年報』（明治十六年九月～大正十五年度、明治三十一年度からは『東京帝国大学年報』31冊）が含まれる。明治四十五年度までは墨筆で書かれ、それ以降はカーボン紙による写しに変わる。内容をみると『文部省年報』に所載の「年報」に記載されている事実とはほぼ合致することから、文部省に提出した報告書の控えであると推測される。

写真手前右は墨筆による稿本『東京大学第五年報』（明治十七年九月～十八年十二月）、手前左は『東京大学第一年報』（明治十三年九月～十四年十二月）の刊本。なぜかこの一冊だけは刊本のみが残されている。後方右は『帝国大学年報』一～十。

文部省往復

東京大学事務局庶務部保存文書の一つに、明治四年からの『文部省往復』がある。これは本学と文部省との間にかわされた往復文書の綴りで、目次は文書の内容や性格により、「御達」、「届」、「上申」、「伺」、「稟請」、「進達」、「学務一局」、「学務二局」（明治十八年の場合）のように分類され、各項目毎に日付順の配列で作られている。この文書は関東大震災、第二次世界大戦、大学紛争のいずれからも焼失・亡失を免かれた。古いものは黒布表紙に装丁されているが、時代が下るにつれて板目紙の仮とし製本に変化していく。背表紙の文字には『文部省往復』の他『文部省開申諸表』もみられる。

写真後方は明治十八年の簿冊、手前に開かれているのは大正八年のもので、「東京帝国大学総長理学博士男爵山川健次郎殿」のあて名が読める。